

GAO 通信 第7号

昭和51年3月25日発信

新田 尚

ジュネーブへきて2度目の春が訪れようとしています。それと共に、FGGE を中心とする GARP の流れも一段と現実味をおびてきました。前回に報告しましたように、2月には政府間 FGGE 計画会議、WMO EC パネル、JOC Officer's Meeting と続き、FGGE に対する各国の取りくみかたの内容がある程度明らかになりました。これらについては別に出席者による報告があると思えますので、それにゆずりたいと思えます。世界的な経済不況の中ですが、最低限以上の観測網の展開は可能に思われ、スタッフは Optimistic な気持で働いています。3月から5月にかけては、具体的な観測手段について技術的に煮つめる作業が開始され、各種の公式、非公式の作業委員会が相ついで開かれようとしています。すなわち、船舶からの上層風観測システム、Carrier Balloon システム、気象衛星、定圧気球、浮遊型ブイ等々、又、WMO の技術委員会でも、FGGE のための検討が行なわれ、現在開催中の Global Data Processing System (GDPS) でも FGGE データの収集、解析、配布の詳細な内容について討論されています。こうした各観測体系やデータ処理の技術的検討も、FGGE が近づくとつれて非常に現実味をおびてきております。と同時にかなり立入った専門的知識を必要とするため、GAO でも後述のように consultant をふやしています。今年の5月に WMO 執行委員会（ジュネーブ）、6月に JOC（ナイロビ）、7月に WMO EC パネル（ジュネーブ）と最高決定機関の会議が開かれますので、この段階で現時点における FGGE の implementation の吟味がなされると思えます。その意味で2回目の総集約といえると思えます。

* * *

各サブプログラムの方も併行して計画がすすめられていますが、主なものを紹介しますと、

GATE：現在、精力的にデータの最終処理が進行中で、各 data centre 間の調整が続けられています。熱帯における数値モデルの開発について、現状分析と将来展望を行うために、4月4日から10日にかけて英 Exeter 大学で研究会議が開かれます。次信でその様子をお知らせします。

モンスーン・サブ・プログラム：1979年に予定している本番の MONEX の計画案を作っていますが、第一次草案が出来上り、目下改訂中です。多分今年の夏には最終案が出来て印刷されると思えます。pre-MONEX の活動である Monsoon-'77 実験の計画会議が、5月17日～21日、スリランカのコロンボで開かれることになりました。ソ連の船による観測が中心になりそうです。先信でもお知らせした西アフリカ・モンスーンの研究は、西アフリカの若い気象学者の熱意と精力的な努力で急速に計画がすすめられ、目下仏気象局のドノ博士を consultant として、博士の西アフリカ諸国訪問を軸にして計画案を作成中で、6月の JOC で正式の GARP の実験 (West African Monsoon Experiment, WAMEX) としての承認をとりつけようと張り切っています。筆者もこのサブ・プログラム担当上、若いアフリカの気象学者と常に接触していますが、明日の世界の気象学界に彼等が登場し、一翼を担う日が近いと感じています。

ポーラー・サブ・プログラム：5月17日～21日カナダのトロントで計画会議を開催する予定で、目下準備が進められています。この方も、ようやくすっきりとまとまってきたという印象をうけています。

気候力学サブ・プログラム：ポスト FGGE の柱として、これから重要な部分を占めると思いますが、その中心となる海洋一大気結合モデルについての現状分析と将来展望、中でも海洋循環のモデルの検討を中心に、研究会議を開くことが計画されています。最初は JOC で主催する予定でしたが、SCOR の方でも同趣旨の計画があったため、JOC-SCOR 合同の研究会議を来春開催することになりました。

山越え及び周囲気流の研究：GARP のサブ・プログラムには、まだ正式に承認されていませんが、科学的計画案を作成するために、5月4日～7日研究会議、8日～10日計画グループの会議がそれぞれユーゴスラヴィアの Sveti stefan, Montenegro で開かれます。現在迄の所ヨーロッパの山岳気象学者が中心に計画がすすめられています。

* * *

(53ページにつづく)

- の前線豪雨について. モンsoonアジアの水資源, 古今書院 (259 pp), 123-142.
- Barnes, S.L., 1972: Morphology of two tornadic storms. Preprints of 15th Radar Met. Conf., 69-76.
- Bradbury, D., 1957: Moisture analysis and water budget in three different types of storms. *J. Met.* 14, 559-565.
- Fankhauser, J.C., 1969: Convective processes resolved by a mesoscale rawinsonds network. *J. App. Met.*, 8, 778-798.
- Matsumoto, S., 1968: Smaller scale disturbance in the temperature field around a decaying typhoon with special emphasis on the severe precipitation. *J. Met. Soc. Japan.*, 46, 483-495.
- 松本誠一, 1973: 降水の空間的スケールと時間的変動の特性. 予報作業指針その7(雨量予報), (296 pp), 27-41.
- 松本誠一, 1974: メソスケールじょう乱の構造と力学. 気象庁技術報告第86巻, 梅雨末期集中豪雨研究報告, (454 pp), 136-149.
- Matsumoto, S. and K. Ninomiya, 1971: On the mesoscale and medium-scale structure of a cold front and the relevant vertical circulation. *J. Met. Soc. Japan.* 49, 648-662.
- 松本誠一・藤田敏夫・浅井富雄, 1962: 36・6豪雨の定性的・定量的解析. 第1報 下層ジェットの構造とその役割に関する解析. *天気*, 9, 213-221.
- Matsumoto, S., K. Ninomiya and S. Yoshizumi, Characteristic features of Baiu front associated with heavy rainfall. *J. Met. Soc. Japan.* 49, 267-281.
- Murakami, T., 1959: The general circulation and water-vapor balance over the the Far East during the rainy season. *Geoph. Mag.* 29, 131-171.
- 二宮洗三, 1961: 1959年8月12~13日の近畿・東海・北陸地方の豪雨について. *研究時報*, 13, 47-52.
- 二宮洗三, 1967: 中規模現象としての豪雨, *天気*, 14, 321-329.
- 二宮洗三, 1974: 梅雨前線帯豪雨の水収支解析. 気象庁技術報告, 第86巻, 梅雨末期集中豪雨研究報告. (454 pp), 53-66.
- Ninomiya, K., 1971 a: Dynamical analysis of outflow from tornado-producing thunderstorms as revealed by ATS-III pictures. *J. App. Met.* 10, 275-294.
- Ninomiya, K., 1971 b: Mesoscale modification of synoptic situations from thunderstorms development as revealed by ATS-III and aerological data. *J. App. Met.* 10, 1103-1121.
- 小沢 正, 1963: 1961年6月末豪雨の雨量分布について, *研究時報*15, 203-218.
- Palmén, E. and E. Holopainen. 1962: Divergence, vertical velocity and conversion between potential and kinetic energy in an extratropical disturbance. *Geophysica* 8, 89-113.
- Palmén, E. and C. Newton, 1969: Atmospheric circulation systems. Academic Press, New York (603 pp) § 12.6 Precipitation and the budget of water vapor, 379-386.
- Saito, N., 1966: A preliminary study of the summer monsoon of southern and eastern Asia. *J. Met. Soc. Japan.* 44, 44-59.

(54ページよりつづく)

初めに書きましたように, FGGE の仕事が具体化するにつれて, GAO の Staff の強化が必要となり, 現在の所, Director の B.R. Döös 以下, 4人の科学官 (V. Boldiren, M. Rubin, D. Rodenhuis と筆者), 5人の consultant (C. Pechman, I. Sitnikon, E. Jatila, G.W. Paltridge, J. Perry) がいます. 主な担当は FGGE の観測体系, データ処理関係が Boldiren (ソ). Jatila (フィンランド), GARP の渉外, ポーラー・サブ・プログラ

ム関係が Rubin (米), GATE 関係が Rodenhuis (米), Sitnikon (ソ), Pechman (米), モンsoon・サブ・プログラム, 数値実験作業委員会関係が筆者, 気候力学サブ・プログラム関係が Perry (米), Paltridge (オーストラリア) となっています. また, GATE の責任者であった J. Kuettner が, その経験を活かすべく, GATE の後始末, FGGE の運営などに助言を与えています. 彼は WMO 事務局長の consultant です. では又,